

2007年

トリコン

(島根県邑南町)



「LEDは近い将来、蛍光灯や電球、ネオン管など既存の照明器具に取って代わるだろう」と話す、トリコンの上田康志社長＝島根県邑南町

「フィデンス」を組み合わせて、上田社長が名付けた。

社員、役員、パートを含め三十二人。プラスチックやガラスに似たエポキシ樹脂と呼ばれるレンズで覆われた砲弾型LEDを、ハンザレックスの商品名で月産約二百万個製造販売する。売り上げは創業以来、右肩上がり。二〇〇六年十二月期は、対前年比約一億円増の二億九千万円だった。

昭和六十年代のピーク時に約十億円を売り上げた島根邑智電子に比べ、会社規模は小さいが、新商品開発には余念がない。

その一つが、昨年七月に試作した、砲弾型のハイパワーLEDだ。大きさは千マイクロ(一ミ)角で、三百五十マイクロメートルで電流を流すことができるチップを用いる。二十マイクロチップを使った明るさ約五千ルクスのカンデラの九倍の約四万五千ルクスのカンデラを示した。



トリコンが製造販売するLED。照明市場の拡大に期待し、今後も新商品開発に取り組む＝島根県邑南町、同社

「LEDが、単に光ればよいという時代は終わった。近い将来、蛍光灯や電球、ネオン管など既存の照明器具に取って代わるだろう」と上田社長。今後は、照明分野という巨大市場での需要拡大をにらみ、今年の売上高は昨年の二倍の六億円、三年後には十億円突破を目指す。

高付加価値のLED開発に意欲

発光ダイオード(LED)を製造、販売する(有)トリコン(島根県邑南町)は、近年急成長するLED市場を背景に、順調に売り上げを伸ばしている。昨年は、従来の九倍の明るさを持つハイパワーLEDや、淡い光を発する「マイルドルミナス」など新商品も

開発した。上田康志社長は「昨年までは業績を拡大するための助走期間。今年はハイパワーとマイルドルミナスを前面に打ち出し、売り上げを一気に倍増させたい」と意気込む。

LEDは、光の三原色、赤・緑・青の半導体素子(チップ)と蛍光体を組み合わせて作る。従来の蛍光灯や電球に比べ低電力で寿命も長く、信号機、

LEDはここ最近、急速に需要を拡大している。

トリコンは、鳥取三洋電機(鳥取市)の孫請けで、LEDを製造する島根邑智電子(邑南町)の営業部門として二〇〇〇年四月に設立された。

社名は「信頼を勝ち取ろう」との思いから、勝利を意味する英単語「トライアンフ」と、信頼を意味する「コン

熱がこもりやすいという砲弾型のチップを、自社の技術と従業員の努力で克服し、現在は取引先にサンプル提供を続けている。

また白色ケースで覆い、柔らかな光を発するイルミネーションなどに適したマイルドルミナスも開発。試行錯誤を繰り返しながら、消費者のニーズに対応する商品作りを続ける。

課題は人材確保。「LEDの需要はある。あとは人口の少ない町で、どうやって人を探すかだ」。上田社長は今年中に十五人程度は増やしたい意向を示し、「将来は街路灯やイルミネーションなど、付加価値を高めた自社ブランドの完成商品を作りたい」と意欲をみせる。